

特集「レジリエントな情報システム構築によるインターネットと運用技術」の編集にあたって

北口 善明^{1,a)}

今日の情報化社会において、インターネットに代表される情報通信ネットワークや分散システムは、社会的インフラストラクチャを支える基盤技術として我々の生活に必要な不可欠な存在となっている。そのため、このような情報システムを継続的かつ安定的に運用させるためには、自然災害を含む突発的な障害に対する備えや、人為的な攻撃に対するセキュリティ対策などが必要となる。これらの対策では、一部の機能障害により情報システム全体が機能不全になること避けるため、システムの多重化や冗長化が取られるが、被った障害から情報システムの機能を速やかに回復する能力も求められることとなる。このような情報システムのレジリエンス（復元力・回復力）を強化することで、災害・障害・攻撃に対して強靱で柔軟性の高い情報システムを実現することができると考えられる。

本特集号では、インターネットや情報システム運用を強靱化するために欠かせないレジリエンスに焦点を当て、これからの情報通信基盤の構築および活用に向けた最新の研究/開発/実験/運用等に関する論文を掲載している。インターネットを始めとするネットワークシステムに関連する様々な運用技術の発展に寄与することを目指し、インターネットと運用技術 (Internet and Operation Technology: IOT) 研究会が中心となって、企画・編集を行った。

本特集号には 13 編の論文が投稿され、19 名の委員からなる特集号編集委員会を中心に査読が進められた。編集委員会には、2017 年末に本特集号と同様のテーマで開催された第 10 回インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2017) のプログラム委員経験者を迎えることにより、テーマの連続性を強化と IOTS2017 の発表を元にした論文の投稿にもつながっている。加えて、本特集号に合わせて「投稿予定論文に対するアドバイス精度」を設け、論文として採録されるために必要な観点を投稿前に指摘することで投稿時の論文品質を向上させる取り組みを実施した。結果として、最終的な論文採録率を 61% にまで引き上げることに成功し、8 編の論文を採録するに至った。

最後に、本特集号を企画する機会を与えていただくとともにその実施にご尽力、ご支援いただいた学会関係者各位に感謝するとともに、本特集号に興味を持ち優れた論文をご投稿いただいた著者の方々と、多忙な中、多数の研究成果を綿密に精査し、より良い論文にすべく有益なコメントをご提供いただいたアドバイス委員、査読委員ならびに編集委員の方々に深く感謝する。また、編集作業をサポートいただいた副委員長および学会事務局の皆様にも感謝する。本特集が読者への有益な情報となり、今後の情報通信技術発展の一助となることを期待したい。

「レジリエントな情報システム構築によるインターネットと運用技術」特集号編集委員会

- 編集委員長
北口善明 (東京工業大学)
- 副編集委員長
今泉貴史 (千葉大学)
- 編集委員 (五十音順)
安東幸二 (mokha)
池部 実 (大分大学)
石島 悌 (大阪産業技術研究所)
石橋勇人 (大阪市立大学)
大谷 誠 (佐賀大学)
柏崎礼生 (大阪大学)
坂下 秀 (アクタスソフトウェア)
佐藤 聡 (筑波大学)
島岡政基 (セコム, 論文誌ジャーナル編集委員会ネットワークグループ主査)
土井裕介 (Preferred Networks)
中村素典 (国立情報学研究所)
中村 豊 (九州工業大学)
西村浩二 (広島大学)
林 治尚 (兵庫県立大学)
松本亮介 (さくらインターネット)
宮下健輔 (京都女子大学, IOT 研究会主査)
山井成良 (東京農工大学)

¹ 東京工業大学学術国際情報センター
Global Scientific Information and Computing Center, Tokyo
Institute of Technology (Tokyo Tech), Meguro, Tokyo 152-
8550, Japan

^{a)} kitaguchi@gsic.titech.ac.jp